

題材デザインのポイント

例 第3学年 音楽科 (題材名: リコーダーのひびきをかんとろう)

分	45分の場合の指導計画 (45分×6時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×6時間扱い)	分
45	①リコーダーの音色に興味をもつ。	①リコーダーの音色に興味をもつ。 ポイント1	40
45	②音色に気を付けながら、シの音を吹く。	②音色に気を付けながら、シの音を吹く。	40
45	③「きらきらぼし」を聴き、リコーダーの音色や旋律の変化を楽しむ。音色や運指に気を付けて、「シ」と「ラ」の音を吹く。	③「きらきらぼし」を聴き、リコーダーの音色や旋律の変化を楽しむ。音色や運指に気を付けて、「シ」と「ラ」の音を吹く。	40
45	④3音の運指を練習し、「きれいなソラシ」を演奏する。	④3音の運指を練習し、「きれいなソラシ」を演奏する。	40
45	⑤「ド」と「レ」の運指を練習し、「坂道」「雨上がり」をリコーダーで演奏する。	⑤「ド」と「レ」の運指を練習し、「坂道」「雨上がり」をリコーダーで演奏する。	40
45	⑥「アチャパチャノチャ」をリコーダーで演奏する。	⑥「アチャパチャノチャ」をリコーダーで演奏する。	40
計		ポイント2・3・4 (全時間)	計
270			240

- ポイント1 題材の見通しをもたせることによる学習活動の効率化**
 - ・題材の第1時から第6時までの流れを、黒板に表示して、これから学習する内容を理解する。題材を通して使えるワークシートの工夫をする。
- ポイント2 一単位時間の見通しをもたせることによる学習活動の効率化及び学習目標の明確化**
 - ・本時の流れを表示し、説明の時間を減らしたり見通しをもって学習したりできるようにする。また、教科書や資料を電子黒板に投影するための準備を全てしておく。
- ポイント3 学習の取り組み方の学習活動の効率化**
 - ・授業1時間の流れ(歌唱・器楽・音楽づくり)をルーティーン化して、動きに無駄がないようにする。
 - ・学び方を学ぶことで、自分の力で学習を進めていけるように、子どもを育成する。
- ポイント4 開始終了時刻の徹底による時間の確保**
 - ・授業の始まりと終わりの時間をきちんと守ることや話の聞き方など、きちんとできていることが最重要であるため、徹底させる。

40分の授業デザインのポイント

(全6時間中の3時間目)
■目標 リコーダーの音色に親しみ、リコーダーの基礎的な演奏の仕方を身に付ける。
■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入 3分	○きらきらぼしの曲を聴く。	◆第1時で、これからリコーダーの学習をすること、リコーダーで曲を演奏することなど、一連の流れをつかんでおく。 ◆きらきらぼしの曲を聴き、リコーダーの音色に親しみをもつような声かけをする。
展開 32分	○前時を振り返り、めあての確認をする。 ○きれいな音を出すためのポイントを押さえ、音色に気を付けながら、シとラの音を吹く。 ・かっこいい姿勢で吹いてみたいな。 ・なかなかうまく穴をふさぐことが難しいな。 ・タンギングは難しいね。 ・息が強くなるように気を付けよう。	◆前時の振り返りを確認し、本時の活動に見通しをもつ。 ◆音を出す前の準備について、ポイントを押さえながら丁寧に指導する。 リコーダー学習の導入 <きれいな音を出すためのポイント> 姿勢 ・背中はピンと伸ばす ・足は床に付けて 持ち方 ・左手が上 右手が下 支え ・右手の親指で楽器を支える 穴とじ ・指のはらの真ん中で、隙間なく 音の出し方 ・下唇に吹き口をのせる ・やさしく息を出して ・タンギングは舌の動きを使って ◆練習1・2、「シ・ラ」の演奏するためのポイントを押さえる。 <曲を演奏するためのポイント> ・リズム唱→ドレミ唱→メロディー→指使い→タンギング奏→曲の演奏
振り返り 5分	○本時を振り返り、学習したことをワークシートにまとめる。	◆題材を通したワークシートの第2時のところに、本時の振り返りを書くよう声を掛ける。 ※タンギングや息の強さなどの演奏の仕方とリコーダーの音色、響きとの関わりに気づき、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(行動観察、演奏聴取 知・技)

題材の流れを確認した前時を振り返り、本時がどんな学習をするのか見通しをもつ。さらに本時の流れを黒板に提示して、本時の流れやゴールの姿をイメージすることにより、スムーズに活動に入れるようにする。

●課題意識をもち、学びを最後までつなげて深めていくための工夫
 ・第1時～第6時までの見通しをもてるように、活動内容や感想が書けるワークシートを工夫する。

●学びを次に生かしていくための工夫①
 《学び方を学ぶ(リコーダー)》
 ・姿勢→支え→穴とじ→タンギングの流れを作る。
 これからのリコーダー学習では、この流れで自分で学習を進めていける子どもを育成する。

●学びを次に生かしていくための工夫②
 《学び方を学ぶ(曲の演奏)》
 ・リズム→ドレミ読み→メロディー→指使い→タンギング
 曲を演奏するために、自分で学習を進めていける子どもを育成する。

●学びを次に生かしていくための工夫③
 ・次時の学習に見通しをもって取り組めるよう、学習したことを振り返る機会を設定する。(題材を通して書くことができるワークシートの工夫)

題材デザインのポイント

例 第6学年 音楽科 (題材名: 日本や世界の音楽に親しもう)

分	45分の場合の指導計画(45分×6時間扱い)	40分の場合の指導計画(40分×6時間扱い)	分
45	①雅楽「越天楽」を聴き、楽器の音色や曲想を感じ取る。 統合・削減	①②ゲストティーチャーによる鑑賞授業学習 雅楽「越天楽」を聴き、楽器の音色や曲想を感じ取る。 体験、鑑賞・表現の追求 ポイント2・3	80
45	②「越天楽今様」の歌詞の内容を理解し、発音や発声に気を付けて歌う。 統合・削減 ・日本に古くから伝わる旋律の動きを生かした歌い方を工夫して歌う。 統合・削減	・「越天楽今様」の歌詞の内容を理解し、発音や発声に気を付けて雅楽の伴奏で歌う。 ・日本に古くから伝わる旋律の動きを生かした歌い方をゲストティーチャーから学び工夫して歌う。	
45	③④様々な国について調べる。様々な国の楽器やその音色に関心をもって聴く。 ポイント4・5	③④様々な国について調べたことを発表し、楽器やその音色に関心をもって聴く。 関連	80
45	⑤それぞれの国の楽器の音色や旋律の特徴などの違いを感じ取る。	⑤それぞれの国の楽器の音色や旋律の特徴などの違いを感じ取る。	40
45	⑥それぞれの国の音楽の特徴や雰囲気の違いを比べながら聴く。	⑥それぞれの国の音楽の特徴や雰囲気の違いを比べながら聴く。 振り返り ポイント5	40
計			計
270	日本文化に親しむ学習である、第6学年国語科「日本文化を発信しよう」では、本や新聞などを活用してパンフレット作りを行う。家庭学習において、国語科で学習した言語活動事項を活用し、「世界の国々と音楽」について、パンフレットにまとめさせ、掲示し発表する。		240

統合: 内容をまとめる **削減**: 学習内容の精選・重点化・活動の充実

ポイント1 内容の焦点化による時間の削減

・毎時間において「学び方が分かる。見通しがたつ。」学習計画を提示することによって内容を焦点化した時間の削減をする。

ポイント2 ゲストティーチャーから学ぶ時間の創出

・ゲストティーチャーから学ぶ鑑賞と表現の一体化をする体験と追求の学習を通して、効果的に表現及び鑑賞の学習を深めることができる。

ポイント3 統合による学習活動の充実

・第1時と第2時を統合することで、効果的に表現と鑑賞の追求ができる。また、第3時と第4時を統合することで、様々な音楽に親しむことが十分にでき、思考・判断に必要な知識・技能の習得、対話的な学びを深めることができる。

ポイント4 他教科等との関連による時間の削減

・第6学年社会科「世界の中の日本」で世界の国々を調べる学習において、オリンピック開催を意識して目黒区文化交流課と連携して大使館職員などと交流する。社会科の指導と関連させることで、音楽科における世界各国についての説明の時間を削減する。また、主体的な学びを育てることができる。

ポイント5 他教科等との関連による学習活動の充実

・第6学年国語科「日本文化を発信しよう」の単元で日本文化に親しむと共に、言語活動で本や新聞などを活用してパンフレット作りを行う。国語科で学習した言語活動事項を活用し、「世界の国々と音楽」について宿題(家庭学習との連携)でパンフレットにまとめ、掲示し発表する。

ポイント6 見通しをもたせることによる学習活動の効率化

・「見通しと学んだ事の実感ができる」ワークシートを作成することで、この題材を通して、何を学ぶか・どう学ぶかの見通しをもつことができる。そして、次の学びに結び付くような振り返りを行うことで意欲が高まり、さらに、児童の学びが深まり、変容していく姿を教師が見取ることができる。

ポイント1・6 (全時間)

80分(統合)の授業デザインのポイント

(全6時間中の3・4時間目) [統合した80分授業]

■目標 様々な国の楽器やその音色に関心をもって聴く。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ◆指導上の留意点 ※評価
導入	様々な国の楽器を知り、音色に親しもう	
5分	○本時の学習内容をワークシートと掲示で確認する。 T:「今日の学習のめあては何ですか。」 C:「様々な国の楽器や音色に親しもうです。」	□目標・学習計画の掲示 □ワークシート ◆社会の時間に調べた内容を宿題でパンフレットに事前にまとめたものを発表することを告げる。
展開	○世界の国について調べたことを発表し、その国の楽器や音色に親しむ。 C:「韓国について調べました。BTSやTWICE等のKポップが有名です。」「日本の箏に似た伽耶琴という琴があります。」 ○それぞれの国の楽器の音色や旋律の特徴などの違いを感じ取る。 ・それぞれの国の楽器や音楽の特徴を動画で視聴する。 ・音楽の雰囲気について気付いたことをワークシートに書く。 ・気付いたことを伝え合い、音色やリズム、旋律、拍の特徴を感じ取る。	□世界地図 ◆国の様子や楽器の特徴、その国の背景などを発表するが、楽器や音楽について中心に発表するよう助言する。 ◆世界地図で場所を確認して共有する。 □調べた国のパンフレット □映像資料(DVD等) ◆視聴動画を準備し、視覚的にも捉えられるようにする。 ◆それぞれの国の楽器や音楽の特徴に気付くことができるように、比較して聴いたり、特徴的なリズムを手拍子しながら聴いたりするように助言する。 ※曲想及びその変化と、楽器の音色、旋律の特徴、音の重なり、拍との関わりについて理解している。(行動観察、ワークシート知・技)
振り返り	○振り返る。 ・聴き取ったり感じ取ったりしたことをワークシートにまとめ、自分の感想や考えを整理する。 ・次時の課題を知る。	◆パンフレットを掲示する事を告げ、それを見て次時まで、良かった所や曲を聴いてみてどうだったか感想を発表することを伝える。
10分	初めて知る世界の国々の楽器や音色の特徴に気づき、音楽の多様性を感じる事ができた。	

統合による本時は、導入の時間を5分、思考・判断に必要な知識・技能の習得の時間を30分、対話的な深い学びを35分、振り返り10分とし、80分の授業内容におさめ、本時のめあてを達成できる効果的な時間のデザインになっている。

●導入は学習計画に基づいて短時間で実施

・学習計画に基づき、児童が本時の学習内容を把握できるようにする。

●「展開」(調べたことを知る)では、社会科・国語科との関連付け

・社会科「世界の中の日本」で調べた内容を国語科の言語活動で学習したパンフレットを作り、紹介して共有する。

●対話的な学びの視点

・友達が調べた発表を聴いたり、音楽を視聴したりする学習を通して、音楽的な見方・感じ方を働かせる時間を十分に確保する。

●友達の発表や映像資料での学習の成果の振り返り

・統合1時間の学習において、事前に調べてまとめたパンフレットを通して、知識が深まり、多様な音楽表現があることを学び、発表から気づき・知識が更新され学習成果を実感できるようにする。

題材デザインのポイント

例 第3学年 図画工作科 (題材名: 絵の具+水+筆=いいかんじ)

分	45分の場合の指導計画(45分×2時間扱い)	40分の場合の指導計画(40分×2時間扱い)	分
45	① 水彩絵の具の基本的な使い方を知る。 ・筆の扱いを変えていろいろな表現を試す。 ・水の量を加減して、効果の違いを楽しむ。 ・垂らしたり叩いたり、表現の工夫をする。 ・自分の色をつくりながら、思いのままにかくことを楽しむ。	① 水彩絵の具の基本的な使い方を知る。 ・既習事項(第1・2学年時の絵の具を使った活動)を振り返りながら、表現の多様性について知識を広げる。 ・自分の色をつくりながら、思いのままに描くことを楽しむ。	40
45	② 自分の色をつくりながら、思いのままに描くことを楽しむ。 ・自分や友達作品の良さや面白さ、表し方の違いなどを感じ取る。	② 自分の色をつくりながら、思いのままに描くことを楽しむ。 ・自分や友達作品の良さや面白さ、表し方の違いなどを感じ取る。	40
計	90	80	計



統合: 2つ以上の指導事項を1つにする

ポイント1 既習事項の活用

・第1・2学年時に共同絵の具を使った活動を経験している。そのとき体得した絵の具を使った表現、「筆の感触」、「水を加減することでの色の伸び」や「混色による表現の工夫」を提示し、思い出させることで、導入部分や活動の紹介を簡潔にし、児童の活動時間を十分に保障する。

ポイント2 ICT機器の活用

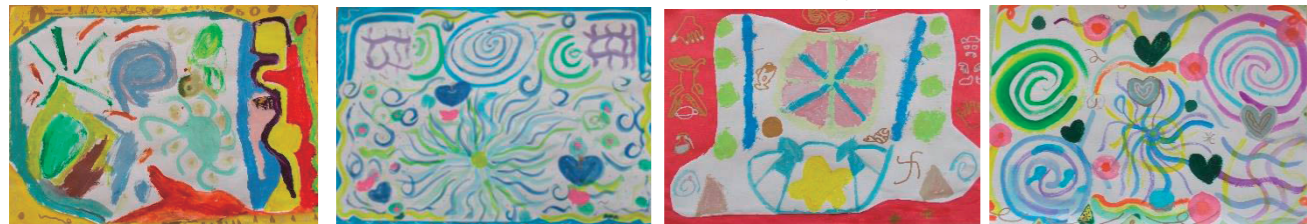
・活動の手順をスクリーンに映して示すことで、児童を集めたり、道具の準備をしたりする時間の短縮を図ると同時に、明確な一斉指導につなげる。

ポイント3 板書掲示の工夫

・準備の最中に手順を忘れてしまった児童のためにパレットや水入れ・雑巾などの使い方や手順の写真を掲示しておく。

ポイント4 鑑賞の日常化

・参考作品を明示することで、活動のめあてを焦点化させたり、活動の見通しをもたせたりする。
 ・視点を明示して展示作品を見ておくように指示することで、鑑賞の時間を短縮する。



題材デザインのポイント

(全2時間中の2時間)

■**目標** 水彩絵の具の使い方を知り、思いのままに表現することを楽しみ、自分にとっていいと感じる形や色を見付け、工夫して表す。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
つかむ 10分	○絵の具の基本的な使い方を知る。 T:「第1・2学年でやったことを思い出しながら、混ぜたり、ぼかしたり、いろいろ試しながら描いてみよう」 ○自分の色をつくりながら、思いのまま描くことを楽しむ。	◆絵の具の出し方、パレットでの混色、筆洗いなど、ICTを活用し実演を見せる。 ・筆先で点々や細い線を描く、太い筆で面にするなど、教師が描いて見せることで、絵の具で描く事への関心をもたせる。 ※水彩絵の具を混ぜたり、描いたりして生まれる色や形を捉えて工夫して表している。 (観察 知・能)
表現する 60分	○試したことから、自分の色や形を見付け、表したいことを考える。 C:いろいろな点々で、はずんでいる感じがする。 C:水を少なくしたら、かすれていい感じ。 C:絵の具を混ぜたら、すごく綺麗な色が生まれたよ。 ○自分の色や形を試したり表したりしながら、思いに合う表し方を工夫する。 ・点を描いたら町になった。 ・にじんだ感じが面白いな。	◆試した色や形から思いついて、絵に表すことを伝える。 ・色や形から広がるイメージを、共感的に見守る。 ・用具の扱いが困難な児童には、手を取り一緒にやりながら理解させ、できた色や形に共感的に寄り添う。 ※水彩絵の具で描いた色や形を生かしながら、自分なりのイメージをふくらませて、表したいことを表している。 (観察・発言 思・判・表)
振り返る 10分	○つくった色や形の良さや面白さを伝え合う。 C:にじんだところが透き通った感じがきれいだね。 C:同じ色でも水の量を変えると感じが変わるんだね。 ○片付けを行う。 ・道具や材料を大切にしながら丁寧に片付ける。	◆面白いところや工夫しているところを見付け、交流する場を設定する。(スライドショーにして見せてもよい) ※自分や友達作品のよさや面白さ、表し方の工夫など、気付いたことを発表している。(鑑賞の発言 思考・判断・表現) ◆まとめをし、片付けを行う。 ・材料や用具の点検を行う。
絵の具を混ぜたり、水の量を加減したりすると表現の多様性が体験できる。試しながら色や形をつくることで、描画材の良さを味わい、自分の思いに合わせた表現の工夫をすることができる。		

本時は、知識・技能の習得の時間を既習事項と関連付けて、導入と併せて10分で終えることで、思考力・判断力・表現力等、発想や構想の時間を重視し、活動時間を60分(2時間目の30分と合わせて60分)かけても40分授業2コマ内におさまり、本時のめあてを達成できるデザインとなっている。

● 道具や描画材の扱いの基本事項の定着

・パレット・水入れバケツなど、初めて個人持ちで使う物の説明はICTを活用したり、写真を掲示したりするなど視覚的に示す。
 ・混色・ぼかし・かすれなどの絵の具を使った表現は既習事項を提示して共有する。

● 「いい感じ」をつかむから、表現する活動へ

・児童の意欲や表したいことに合わせて時間を調整する。



● 対話的な学びの視点

・児童が自分の色や形から表したいことを見付けられるよう、活動を認めたり、友達と交流したりするよう声をかける。

● 表現の多様性や工夫を鑑賞する時間の充実

・絵の具表現の特性や可能性を体験的に感じたり見たり、その価値を共有することで、活動の成果を実感する。

題材デザインのポイント

例 第6学年 図画工作科 (題材名: 墨と水から広がる世界)

分	45分の場合の指導計画 (45分×4時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×4時間扱い)	分
45	① 学習活動の内容、めあて、見通しをつかむ。 墨と水を使って、いろいろ試しながら表すことを楽しむ。	① 学習活動の内容、めあて、見通しをつかむ。 墨と水を使って、いろいろ試しながら表すことを楽しむ。	80
90	② 墨と水から生まれる形や色の特徴を捉えながら、思いに合わせて、工夫して表す。	② 墨と水から生まれる形や色の特徴を捉えながら、思いに合わせて、工夫して表す。 墨や水などに働きかけながら、自分たちの形や色などのよさや美しさを感じ取り、さらに表現を深めていく。	80
45	③ 自分たちの作品を見合いながら、工夫やよさを感じ取る。		
計			計
180			160

統合: 2つ以上の指導事項を1つにする **増加**: 重点化、充実を図るために時数を増加

ポイント1 導入の充実

・実際の材料や用具を使った教師の演示による的確な導入を行うことで、児童が学習のめあてと見通しを短時間でも主体的に学習を展開するとともに、第2時の導入の時間を削減する。

ポイント2 他題材との関連

・他題材「おもしろ筆」(工作)との関連。自分で作った筆も活用し、円滑に学習計画の設定を行う。

ポイント3 学習内容の精選・重点化

・作品を見合う鑑賞の時間を削除し、表すことと見ることをより一体にした学習環境を設定し、表しながらよさや美しさを感じ取る時間を十分に確保する。

ポイント4 他教科との関連

・学習したことを発展的に扱う。墨という伝統的な材料に触れて感じたことなどは、道徳のC「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」との関連が深い。

ポイント5 既習事項の活用

・2年間を通した年間指導計画により、既習事項を活用する。



40分の授業デザインのポイント

(全2時間中の2時間目)

■目標 墨と水から生まれる形や色などの造形的な特徴、構成の美しさなどの感じを捉えながら、自分の思いに合わせて工夫して表す。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
つかむ	墨と水がつくる形や色の持ちようをとらえ、自分の思いに合わせて工夫して表す。	
5分	○本時のめあてをつかむ。 T:「墨と水でいろいろ試して生まれた形や色にはどんな特徴がありましたか。」 C:「うすい墨の形が重なっていくと、奥の方へ続く感じがします。」	◆前時の活動や作品をスライドショーで見せ、試みながら生まれる形や色などの特徴に注目して主体的に活動が展開できるようにする。
試す 感じる 考える	○墨と水、用具を使い、思いに合わせて工夫して表す。 C:「少し離れて見てみよう。ここに何を組み合わせたらいいかな。」 C:「友達のうすい墨の重なりがきれいだなあ。どうやってかいたの?」	◆前時の活動を生かしながら、材料や用具に進んで働きかけていくよう促す。 ◆表しながら作品を展示して見る場を設定し、自由に貼って少し離れて見ながら、友達の活動や作品に自然に触れられるようにする。 ◆児童が繰り返し試みている方法、用具の選び方、形や色に見入る姿などとイメージのつながりを読み取る。
65分	○表しつつある形や色などどのようなイメージをもっているか、言葉で整理する。	◆一人ひとりが作りだした形や色、イメージなど、新しいものやことをつくりだそうとしている姿勢を価値付ける。
	うすくにじんだ形が浮いているように感じたので、濃さを変えて、いくつも重ねて「夏の雲」のイメージで表しました。 C:「友達の表し方を取り入れてみよう。」 C:「前につくった“おもしろ筆”をここで生かそう。」	※墨と水が作り出す形や色などの特徴を捉え、思いに合わせて表し方を工夫している。(観察・作品 思・判・表、知・技)
振り返る	○活動を通して感じたことや思ったことなどを振り返る。	◆一人ひとりの表現を温める雰囲気を作る。
10分	友達の表し方を見ながら表したら、墨と水の世界がもっと広がりました。表し方を工夫すると、墨と水だけでも思い描いた世界が広がっていきました。	

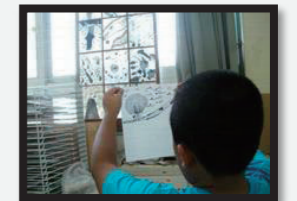
本時は、導入の時間を5分で削り、自分の表したいことを見付け、工夫して表す時間を十分に確保した。対話的で深い学びを重視し65分かけても80分授業内におさまる、本時のめあてを達成できるデザインとなっている。

●導入にはICTを取り入れ、短時間で実施

・前時の活動の姿や作品の経過画像を見て、短時間で本時のめあてをつかむ。

●対話的な学びの視点

・墨と水で広がる形や色などをともにイメージをもつ(自己内対話)
・自然に友達の活動や表現に触れ、見方や感じ方を広げる。(他者との対話)



●学習の調整を図っている一人ひとりの活動の共感的な見守り

・教師は、一人ひとりが手掛けている形や色、表し方などから、その児童が何を感じ考えているのか想像力を働かせて読み取る。

●言葉で整理して言語活動の充実を図る

・活動を通して自分が思い付いたこと、表したいと思っていること、考えたことなどを簡単に言葉で整理する。
・[共通事項]の形や色、イメージを視点にする。

単元デザインのポイント

例 第3学年 体育科 (単元名: 器械運動 マット運動)

分	45分の場合の指導計画 (45分×8時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×8時間扱い)	分
	毎時間取り組む基礎感覚づくりの運動: ゆりかご・かえるの足打ち・腕支持での川跳び		
45	① オリエンテーション(ねらい・流れ・安全・場など) 今もっている力で楽しむ。	① オリエンテーション(ねらい・流れ・安全・場など) 今もっている力で楽しむ。	60
	統合	ポイント1	
45	② 技と技をつなぐ動きを知る。	② 前転の行い方を知る。	40
		ポイント2	
45	③ 前転の行い方を知る。	③ 後転の行い方を知る。	40
		ポイント3	
45	④ 後転の行い方を知る。	④ 頭倒立・側方倒立回転の行い方を知る。	40
45	⑤ 頭倒立・側方倒立回転の行い方を知る。	⑤ コースを決めて自己の課題解決に取り組む。	40
	増加		
45	⑥ コースを決めて自己の課題解決に取り組む。	⑥ コースを決めて自己の課題解決に取り組む。	40
45	⑦ 技のつなぎ方を考える。	⑦ 技のつなぎ方を考え、学習した技の発表会をする。	60
	統合	ポイント1・2・4	
45	⑧ 学習した技の発表会をする。		
計			計
360			320

統合: 長時間学習にするために統合 **増加**: 重点的な学習内容の時数増加

ポイント1 一単位の時間を工夫した、弾力的な単元計画

・40分授業・60分授業を活用し、弾力的な単元計画を立てることで、運動の系統性を考え、児童が必要感をもって運動に取り組み、学習のねらいを達成できるようにする。学習内容を学ぶことだけでなく、学び方を身に付けていく視点も大切にする。

ポイント2 系統的な指導を生かし、主体的な学習へつなげる工夫

・自ら考えるきっかけをつくるために、低学年の「マットを使った運動遊び」での動きと動きをつなげる経験を生かし、技の繰り返しや組み合わせ方のポイントを想起できるようにする。技と技をつなぐ指導については低・中・高学年の器械運動で系統的に指導できるようにする。

ポイント3 重点的な学習内容を指導する時間の確保

・第7時に60分授業内で技のつなぎに関する指導を扱うことで、自己の課題解決のための活動を選ぶ時間を十分に確保できるようにする。

ポイント4 学習した成果を見合う場の設定

・習得したことを活用して発表会を行うことで、他者の運動を見て、考えたこと・思ったこと等を発信し、学習の成果を相互に実感できるようにする。

40分の授業デザインのポイント

(全7時間中の3時間目)【思考力・判断力・表現力等をねらいとしたデザイン】

■目標 自己の課題を見付け、後転ができるようになるための活動を選択することができる。

■展開

	○主な学習活動	◆指導上の留意点 ※評価
導入	○整列・挨拶をする。 ○場の準備をする。 (ペア学習・小マット14枚)	◆グループごとに準備する役割を事前に明確にする。
10分	○準備運動・基礎感覚づくりの運動をする。	◆マット運動に必要な運動感覚を意識できるようにする。
展開	後転をするためのポイントを見付けて、練習の場を選ぼう。	
20分	○後ろ転がりをする。 ○後転の行い方を知る。 ○後転に取り組む。 ○練習の方法を知る。 ○場を選んで活動する。 ○後転の行い方を振り返る。	◆後転の4つの行い方をして、いる児童を見付け称賛する。 ◆ポイントを全体で共有する。 ◆後転のポイントを考え、後ろ転がりとの違いを明確にし、ながら、友達と運動を見合う姿を価値付ける。 ◆技のポイントは資料・掲示物で共有できるようにする。 ※自己の課題を見付け、後転ができるようになるための活動を選択しようとしている。 (観察 思・判・表)
まとめ	○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。	◆よく使った部位を重点的に扱う。 ◆後転を行う際に意識したことなどをカードに記入できるように促し、共有する。 ◆安全に配慮し、片付ける姿を価値付ける。
10分	○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。	

本時は、低学年での運動遊びを生かして、後転を学習する時間である。主体的に学習できるように、既習の運動経験からポイントを見付けて、課題解決していけるようにする。

●**基礎感覚づくりの運動**
・毎時間の導入では、マット運動に必要な運動感覚を養う時間を設定する。

●**運動の系統性の意識化**
・運動の系統性を意識して技のポイントを焦点化する。技能ポイントを意識できる発問をすることで、技を見合う視点を明確にした対話を促す。

●**体育館を使う上での環境整備**
・技のポイントなどは毎時間、体育館に掲示し、次時以降も学びの過程を実感できるようにする。
・体育館割り当ての固定時間割を学年で連続にすることが、準備・片付けの時間短縮につながる。

●**重点化した視点の明確化**
・知識及び技能の習得をねらいとしたデザイン例である。
・展開の時間を増やし、技能の向上を図る。

(全7時間中の6時間目)【知識及び技能をねらいとしたデザイン】

展開	○めあてを確認する。 ○個人の課題に応じてコースを決める。 ○課題解決に向けて取り組む。(チャレンジタイム①) ○取り組んでいる技を友達と確認し合う。(チェックタイム) ○課題解決に向けて取り組む。(チャレンジタイム②)	発表したい技を練習しよう。
25分	○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。(短時間化) ○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。	
まとめ		
5分		

●**技能習得を目指すための運動量の確保**
・技能を習得するために、ICT機器を活用して、友達と関わりながら技能を習得できる学習計画とする。ペアでマット1枚という場を設定することや、振り返りを短時間化することで、運動量を確保し、技能習得を目指すようにする。

単元デザインのポイント

例 第6学年 体育科 (単元名: ボール運動 ソフトバレーボール【ネット型】)

分	45分の場合の指導計画 (45分×8時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×8時間扱い)	分
45	①ソフトバレーボールを理解し、基本のパスを身に付ける。(試しのゲーム)	①試しのゲームをして、上手にボールをつなぐコツを考える。	40
45	②トスの技能を身に付け、みんなでたくさんつなげる。	② ゲームを楽しみながら、レシーブからアタックまでのボールの流れを安定してできるようにする。	40
45	③レシーブの技能を身に付け、トスとレシーブでラリーを続ける。(ラリーゲーム)	③	40
45	④アタックを身に付け、チームで攻撃の作戦を考える。	④	40
45	⑤攻撃だけではなく、守備の作戦も考えてゲームにかす。	⑤自分のチームの特徴を生かしたり、課題を把握したりして、作戦を考える。	40
45	⑥作戦をレベルアップさせる。	⑥自分のチームの特徴に応じた作戦でゲームをする。	40
45	⑦ 作戦を意識してゲーム大会を行う。	⑦ゲーム大会を企画する。(作戦の練り直し)	20
45	⑧	⑧ゲーム大会を開催する。	60
計	360	計	320

統合: ゲームにつながる技能を身に付けるために統合

増加: 重点的な学習内容の時間増加

ポイント1 1単位の時間を工夫した、弾力的な単元計画

・20分授業、60分授業の弾力的な組み合わせで、学習に必要な時間を最適化する。(第7・8時)

ポイント2 試合で生かせる技能を身に付けるためにレシーブからアタックの流れを大切に

・技能の習得はレシーブからアタックまでの流れで捉えさせ、チームで安定してつなげられるように練習に取り組み、個人の技能も同時に習得できるようにする。そのため、作戦を考える学習時間を十分に確保することができる。

ポイント3 ルールを見直す時間を毎時間確保

・ゲームのルールは、ゲームを通して改善ポイントを毎時間話し合い、児童で作り上げていく。

ポイント4 他教科との関連

・学習したことを発展的に扱う「ゲーム大会を開催する」は、国語科の話す・聞くの単元「みんなで楽しく過ごすために」と関連付ける。

40分の授業デザインのポイント

(全8時間中の3時間目) 【知識及び技能の習得をねらいとしたデザイン】

■目標 相手のコートに返球するとき、味方がアタックしやすいパスを出すための動きやパスができる。

■展開

	○主な学習活動	◆指導上の留意点 ※評価
導入	○整列・挨拶をする。 ○めあてを確認する。	◆学年で体育の時間を連続して実施し、準備が済んでいる状態で授業を始める。
10分	○準備運動をする。 ○ゲームにつながる運動をする。	◆アタックのポイントの確認をしてから取り組む。
展開	○ゲーム① ・課題を見付ける。 ・解決方法を考える。 ○ゲーム② ・話し合いを受けて、ゲームを行う。	◆アタックを打つ人にパスを出す人がどのように動いて、どのようなパスを出すとよいか課題を明確にする。 ◆ミニホワイトボードを用いて、より具体的にイメージしやすいようにする。 ※山なりのパスをすることができている。(観察 知・技)
まとめ	○整理運動をする。 ○本時の学習を振り返る。	◆全体で本時のめあてを振り返り、次時のめあてにつなげる。 ◆バレーボールの上達ポイント、よかったプレー、言葉かけについて発表し、よさを広める。 ※自分や仲間がどのように動いたらいいか伝えたり、書いたりしている。(学習カード 知・技)
10分	○学習カードを記入する。 ○ルールの確認をする。 ○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。	

(全8時間中の5時間目) 【思考力・判断力・表現力等をねらいとしたデザイン】

展開	○チームの課題や特徴を基にした作戦について話し合い、アタックを決められるようにしましょう。
25分	○試しのゲームをする。(交代して観察者となり、チームの現状を把握する) ○作戦について話し合う。 ○作戦を実行に移し、ゲームをする。
まとめ5分	○整理運動をする。 ○学習カードを記入する。 ○ルールの確認をする。 ○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。

本時は、知識・技能の習得を目指した時間である。そのために、本時の活動は、個人のボール操作とボールを持たないときの動きが身に付けることができるデザインとした。



●時間割りや環境の整備

・学年で体育の時間を連続して実施し、準備や片付けを相互に行うことで、学習時間を確保することにつながる。

●帯で技能を習得

・ゲームにつながる技能を身に付ける運動を毎回設けることによって技能の習得を確実にする。
・ゲームを行う時間でもゲームにつながる技能を身に付けることを促し、「知識・技能」習得の時間をしっかり確保できるようにする。

●成果を振り返る時間の充実

・めあての達成を確認・共有する時間を確保するため、話し合いのポイントを明確にする。
・本時ではゲームを通して山なりのパスができているかを振り返るようにし、学習の成果を実感できるようにする。

●重点化した観点の明確化

・思考力・判断力・表現力等をねらいとしたデザイン例である。
・話し合いの時間を確保するため、展開の時間を長くとする。

例 第3学年 外国語活動 (単元名: What do you like?) ポイント1

分	45分の場合の指導計画 (45分×4時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×4時間扱い)	分
45	①日本語と英語の音声の違いに気付くとともに身の回りの物の言い方を知る。	①日本語と英語の音声の違いに気付くとともに身の回りの物の言い方を知り、慣れ親しむ。	40
45	②身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	②何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ、尋ねたい内容ごとにグループを作る。	60
45	③相手に何が好きかを尋ねたり答えたりする。	③相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりする。	40
45	④相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりする。	④尋ねたことをグラフにまとめて発表する。	20
計	180	計	160

統合・削減: 合わせて減らす 増加: 時間を増加

- ポイント1 導入の工夫**
 ・第1時では、進出語句や表現との出会わせ方を工夫することで、時間を削減しても十分に慣れ親しめるようにする。
- ポイント2 長時間学習**
 ・第2時では、短時間学習と結び付けて60分にすることで、活動や児童の気持ちの高まりを途切れさせることなく学習を展開させ、次時への発展的な学習につなげられるようにする。
- ポイント3 他教科との関連**
 ・第3時では、学級活動と関連させ、学級遊びの内容をインタビューで決める活動を取り入れる。また、第4時では、算数科の棒グラフの学習と関連させ、インタビューで聞いた内容をもとに棒グラフを作成する活動を行う。このように、生み出した時間で他教科の活動に発展させ、外国語活動で学んだことを実際の場面で活用することにつなげている。

(全4時間中の3時間目)
目標 相手に伝わるように考えながら、好きなことを尋ねたり答えたりしている。

展開

導入	○主な学習活動 ・予想される児童の反応 ○挨拶、ウォームアップをする。 【Let's Chant】 What do you like? ○前時を振り返り、活動の見通しをもつ。 ○本時のめあてを知る。	◆指導上の留意点 ※評価 ◆HRTとALTのミニトークでは、本時で扱う語句や表現を使って会話をする。 ◆インタビュー結果をもとにグラフを作成することを知らせ、活動の見通しをもたせる。
展開	○各グループの予想を発表する。 ○グループで作戦の確認をする。 ○【Activity】 友達と好きなこと(遊び、スポーツ等)を尋ね合う。	◆グループで、何が1番になりそうか予想を立て、発表させる。 ◆インタビューの尋ね方や誰に尋ねるかを確認させる。 ◆中間指導を行い、インタビューを行う上で困ったことやよかった点を確認する。 ※好きなことを尋ねたり答えたりしている。(ワークシート、行動観察、振り返りカード)
振り返り	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ○終わりの挨拶をする。	◆ALTは、本時の活動についての感想を伝える。

Today's aim みんなの好きなことをインタビューしよう。

HRTとALTのミニトークで、その時間に扱う語句や表現を使って会話をするので、活動にスムーズにつなげることができる。

●本時のゴールの提示
 ・導入で、前時のインタビュー結果をもとにグラフを作成することを伝え、活動の見通しをもたせる。

●言語活動の充実
 ・HRTとALTのミニトークでは、本時の活動につながる内容を話題とする。また、児童を巻き込んで会話することで、語句や表現に慣れ親しめるようにする。

●「主体的・対話的で深い学び」の保障
 ・中間指導を行い、活動中に困ったことや疑問に思ったこと等を全体で確認する。また、模範となる児童を紹介し、次の活動につなげるようにする。

●短時間学習における授業展開の工夫
 ・本時のインタビュー結果を基に、短時間学習で算数科で学習した棒グラフを作成する活動を行う。短時間学習と合わせることで、外国語活動で学んだことを実際の場面で活用する時間を確保することができる。また、学級活動と関連させ、一番人気があった遊びを実際の学級遊びで取り入れる。

単元デザインのポイント

例 第6学年 外国語科 (単元名: Let's go to Italy.) ポイント1 毎時間

分	45分の場合の指導計画 (45分×8時間扱い)	40分の場合の指導計画 (40分×7.5時間扱い)	分
45	① 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	① 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	40
45	② 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	② 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	40
45	③ おすすめの国や地域と、その理由について尋ね合う。	③ おすすめの国や地域と、その理由について尋ね合う。	40
45	④ 行ってみたいおすすめの本国の有名なものを調べて、尋ね合う。	④ 行ってみたいおすすめの本国や地域と、有名なものについて尋ね合う。また、世界遺産について考え、世界と日本のつながりについて理解を深める。 関連	40
45	⑤ 「旅行案内カード」を作って、やり取りをする。	⑤ 行ってみたいおすすめの本国や地域と、その理由について伝え合う。	40
45	⑥ おすすめの本国についてポスターを作って発表する。	⑥ 英語の語の役割について知り、オーストラリアについて理解を深める。	40
45	⑦ 世界遺産について考え、世界と日本についての理解を深める。	⑦ 行ってみたいおすすめの本国や地域について、5年生に分かりやすく紹介する。	60
45	⑧ 英語の語の役割について知り、オーストラリアについて理解を深める。	⑧ 英語の語の役割について知り、オーストラリアについて理解を深める。	40
計	360	300	計

統合・組み替え: 時間の統合と入れ替え 増加: 時間の増加

ポイント1 スマールトークの設定

・毎時間スマールトークを設定し、新しい語句や表現に触れさせることで、児童が思考を働かせ、推測・想像する時間を十分に確保する。

ポイント2 書く活動の工夫

・「旅行案内カード」を作成する時間を削減するために、第1～3時の授業で書く時間を設定し、まとめておく。

ポイント3 時間の削減

・第4時に向け、総合的な学習の時間「国際理解」と関連させ、世界の国や地域についての理解を深めておくこと、また、第7時に向け、ICT等を活用しポスターを事前に作成しておくことで、時間を削減することができる。

ポイント4 弾力的な組み合わせ

・20分の短時間学習との弾力的な組み合わせで60分の授業とし、言語活動の充実を図る。(第7時)

40分の授業デザインのポイント

(全7時間中の2時間目)

■目標 世界で有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。

■展開

導入 12分	○主な学習活動 ・予想される児童の反応 ○挨拶 ○スマールトーク 指導者と児童のやり取り (ALTの質問に対して) C: Yes, I do. No, I don't. Me, too., Really?, Nice.等 ○めあての確認 T: 「ALTの先生の話聞き、今日の学習のめあては何だと思いますか。」	◆指導上の留意点 ※評価 ◆映像や音声を用いることで、児童が新しい語句に注目して意味を推測し、話の概要をつかめるようにする。また、やり取りを通じて発話しながら語句や表現に慣れ親しませるようにする。
展開 24分	Today's Aim: 世界の有名な建物や食べ物について知ろう。 ○児童同士のやり取り スマールトークのやり取りを手本とし、相手の行きたい国を推測して伝え合う。 C1: Can you guess which country? Hint 1: You can see the Colosseum. Hint 2: You can eat pizza. C2: You want to go to Italy. C1: That's right. It's your turn.	◆相手の行きたい国が分からないときは、質問してヒントを聞くよう伝える。 ◆中間指導では、やり取りをする上で困ったことを全体で共有し、後半の活動につなげられるようにする。 ◆前半10分、中間指導4分、後半10分を目安に、聞き手と話し手やペアを交代させながら行う。
まとめ 4分	○書き写す活動 モデル文の音声を読み、声に出して読む。本時で扱った国の中から興味のある国について一文を4線に書く。	◆4線黒板等を用意し、大文字・小文字を意識して書かせる。語と語の間には隙間をあけ、文の終わりにはピリオドを打つことを指導する。
	○振り返り 前時及び本時の活動を振り返り、シートに記入する。 ○挨拶	◆本時の成果や課題を共有する。児童の発言を受けて、称賛や助言を行う。 ※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。学習状況(～is..., You can ~., It's ~.おおよその関連語句などについての理解)は把握しておく。

導入のスマールトークで前時までの復習と本時で扱う表現を示し、慣れ親しめるようにする。やり取りの時間を十分確保し、書き写す活動は、本時の学習のまとめとして行う。

●本時のめあての設定
・スマールトークで、めあてにつながる内容を扱い、児童から引き出して設定する。

●言語活動の充実
・スマールトークでは、HRTとALTの会話に児童を巻き込むことで、児童の様子を見取りながら語句や表現に慣れ親しませる。また、活動につながる内容を扱うことで、説明が必要なくなり、導入から活動へスムーズに展開させることができる。
・思いを伝え合う活動を充実させ、外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた学びにつなげられるようにする。

●書き写す活動の導入
・毎時間の授業で書く活動を設定し、単元の終末で、書き溜めたことをまとめて発表できるようにする。

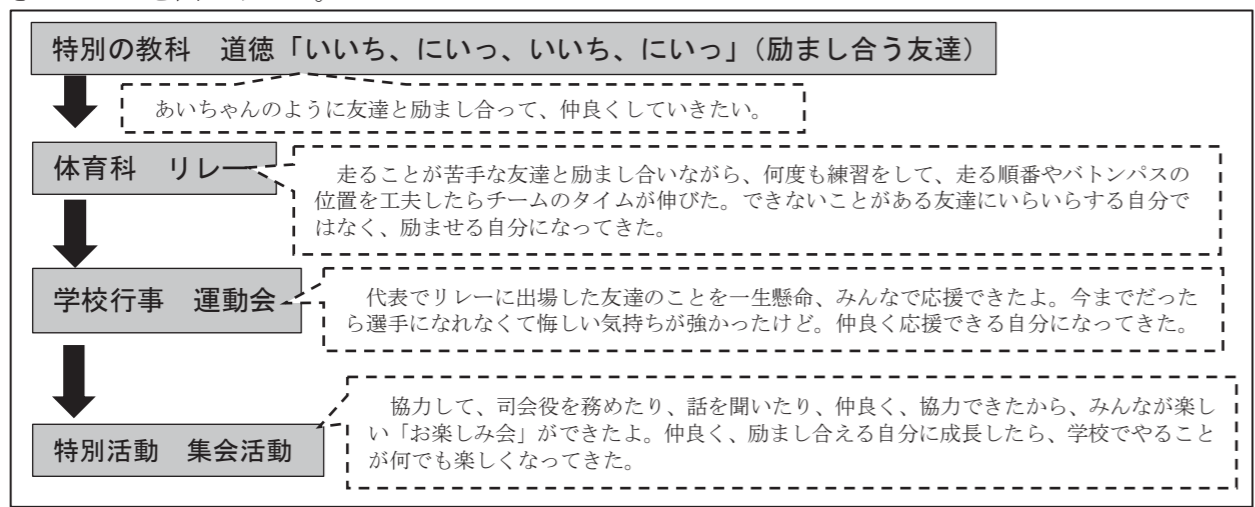
●振り返りの工夫
・本時の振り返りと本単元の到達度を短時間で適切に振り返ることができるよう、Can-doリストを兼ねたシートを作成する。

Italy is a nice country.

主題デザインのポイント

例 第3学年 特別の教科 道徳
(主題名：励まし合う友達)
(内容項目：「友情、信頼」A主として自分自身に関すること)
(教材名：「いいち、にいつ、いいち、にいつ」)

- ねらいとする道徳的価値について**
 友達は、互いに関わり合い助け合うことにより、心が通じ合う。相手を信頼し、友情を育んでいくことは豊かな人生を送るうえで、大変重要である。助け合い、励まし合いながら互いに成長していくことが大切である。
- 児童の実態**
 この時期の活動的であり、集団で行うスポーツなどの運動を好む反面、勝敗にこだわるあまり、相手を傷つけるような言い争いも多く見られる。勝ちたいために相手の気持ちが理解できず、自分中心の考えになりがちである。
- 他教科との関連**
 道徳の時間を要として、他教科・領域と関連付けて、年間をとおしてどのような児童を育てていきたいのかを図で示した。



- 家庭との連携**
 本主題は、ユニット「いじめのない世界へ」に関連した教材である。学級編成後、人間関係が落ち着いてきたころに、これからの学級づくりの基盤として、いじめを生まない心を育てていきたい。そのためには、保護者会や個人面談などの機会に、児童の様子を保護者と話し合ったり、道徳のおたより等で学級担任の思いを発信したりすることにより、学校、地域、家庭との協力で児童の心を育てていきたい。

特別の教科 道徳における40分授業のポイント

- ポイント1 導入におけるアンケートの活用**
 ・学習予定の主題や道徳の内容項目に関わるアンケートを事前に実施することで、学習内容の趣旨を端的に示し、短時間で学習の方向性を示す資料、意図的指名を計画するための資料とする。
- ポイント2 役割演技の活用**
 ・役割演技をとおして判断力を高め、複数の意見が児童から示され、考えが広がるようにする。
- ポイント3 終末の工夫(効果的な画像の活用)**
 ・学習した主題に関わる学級の様子やこれまでの経験を思い描けるように「遠足」や「運動会」などの写真を提示し、友情、信頼の心情を高め、ねらいとする価値の方向付けを促す。
- ポイント4 問題解決的学習展開**
 ・導入で主題に関わるめあてを設定し、解決に向けて資料を読んだり、話し合ったりする。

40分の授業デザインのポイント

- 教材名 「いいち、にいつ、いいち、にいつ」 友情、信頼
- 目標 友達と互いに理解し、助け合っていこうとする態度を養う。
- 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入 5分	○友達について話し合う。 T:「友達」という言葉から、どんなことをイメージしますか。 C:優しい。 C:助ける、励ます。 T:みんなは、友達としては、助け合ったり、励まし合ったりしているかな。 C:している。 C:でもけんかすることもある。	◆言葉からイメージすることねらいとする価値への方向付けを図る。 ◆詳しい体験には踏み込まず、「友達は助け合うのだろうか。」と、問い、本時の課題にする。
展開 前段 15分	○「いいち、にいつ、いいち、にいつ」を読んで話し合う。 T:ちえが、あいちゃんのお母さんに「ちがうの、そうじゃないの。あいちゃんのおかげで1番になったの。」と言ったのは、どうしてでしょうか。 T:ちえは、どうして(あいちゃんと組んだら、いやだな。)と思ったのですか。 C:あいちゃんは、走るが遅いから。 T:何回やってもうまくできなかったとき、ちえはどんな気持ちだったのでしょうか。 C:あいちゃんはやるきがない。 C:友達なんだからがんばろう。 C:あいちゃんを上手にさせよう。	◆ちえの「いやだな。」という気持ちを多様に話し合う。 ◆喜んでいる気持ちを問い、失敗する二人の発問につなげる ◆あいちゃんを「批判する気持ち」や「もっと励ましていこうという気持ち」など役割演技を効果的に使い様々な感じ方を出させる。
展開 後段 15分	○友達と励まし合ったり、助け合ったりした経験を話し合う。 T:学級の友達と励まし合ったり、助け合ったりしてがんばったことはありますか。 C:運動会の表現でチームができなかったとき、声をかけ合った。	◆経験が話しやすいように行事や授業など写真を用意する。 ※励まし合い、助け合う友達の視点に、自己の在り方を見つめているか。(ワークシート)
終末 5分	○友情をテーマにした曲を学級の写真を振り返りながら、全員で歌う。	◆互いのことを思いやり、励ます内容の歌を歌う。

今日の学習、そして今までの友達との助け合い、励まし合い思い描きながら歌い、温かい雰囲気の中、余韻を残して学習を終える。

「発問を精選」「ポイントをしぼった活動」「効果的な画像」の工夫を行うことで、40分の授業時間であっても、ねらいとする価値に児童が迫ることができる。

●アンケートの活用
 ・「友達」のイメージについては、あまり深入りせず、「友達」から思い描くことについて事前にとったアンケート結果「友達は助けてくれる」から、「友達は本当に助けてくれるの?」と切り返し、意見が分かれることで課題を設定し、時間を短縮できる。

●発問の精選・構成
 ・喜んでいる二人の気持ちを、まず問い、そこまでに至る困難が児童から出やすいように発問を大きく2つにしぼり、精選する。

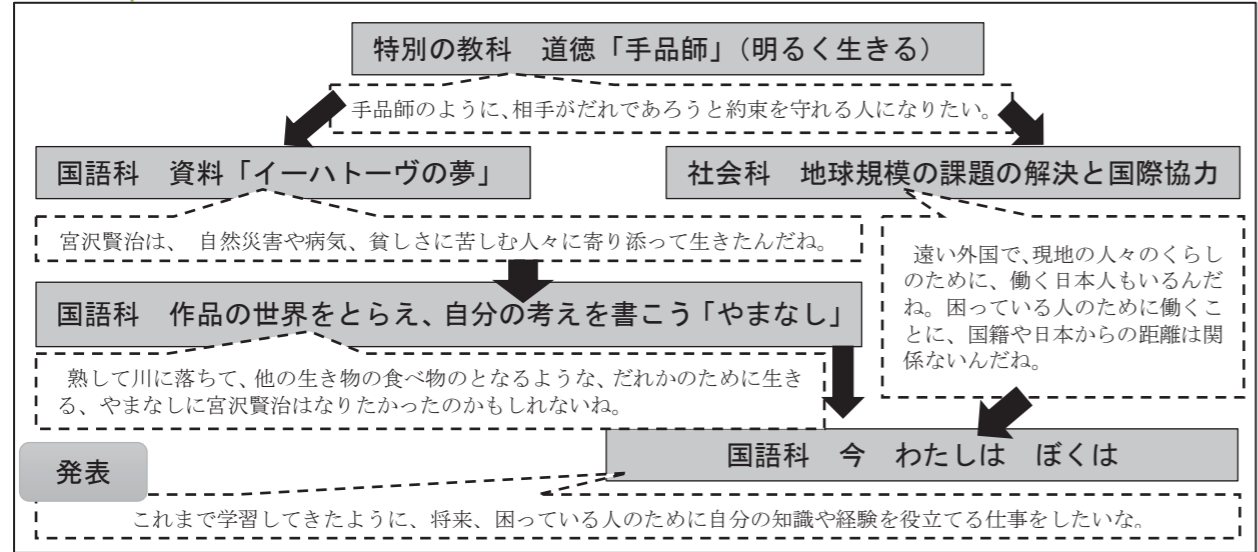
●効果的な役割演技
 事前のアンケートを踏まえて、意図的指名を行い「助け合い」「励まし合い」の観点が児童の意見から示されるようにする。加えて、話し合いをとおして、違った視点の児童の考えを教師が引き出し、考えが広がるようにする。

●効果的な画像の活用
 ・助け合い、励まし合う、経験を思い描けるように「遠足」や「運動会」などの写真を提示し、ねらいとする価値の方向付けを促す。

主題デザインのポイント

例 第6学年 特別の教科 道徳
(主題名：明るく生きる)
(内容項目：「正直、誠実」A主として自分自身に関すること)
(教材名：「手品師」)

- ねらいとする道徳的価値について**
 誠実とは、真心であり、誠の行いである。集団生活の中で誠実に明るく行動し合うことは、楽しく快適に暮らすためにも大切なことである。良心に従って精一杯努力したり、人に対して陰ひなく真心をもって接したりしようとする心情を育むようにする。
- 児童の実態**
 誠実に明るく生活することの大切さについて、大多数の児童は理解している。しかし、実生活においては、利害関係などから不誠実な言動を取ったり、自己防衛や自己顕示の欲求から、他に対してうそをついたり、ごまかしたりする児童も見られる。
- 他教科との関連**
 道徳の時間を要として、他教科・領域と関連付けて、年間をとおしてどのような児童を育てていきたいのかを図で示した。



- 家庭との連携**
 保護者会や個人面談、学年だより等をとおして、日頃の行動の中で、誠実にできなかったことがあれば、その時の子どもの気持ちや家族の気持ちについて話し合うことや、保護者が今まで見聞きしてきた誠実さを貫いた人の具体例があれば児童に話すことについて協力を依頼する。

特別の教科 道徳における40分授業のポイント

- ポイント1 発問の精選**
 ・展開前段に発問を1～2問、展開後段も発問を1～2問に精選する。
- ポイント2 板書の精選**
 ・児童の発言を全て書くのではなく、キーワード化して端的に書いたり、複数の児童の意見をまとめて書いたりする。
- ポイント3 終末の工夫**
 ・今日話し合ったことがより深まり、これからの実践意欲につながる内容で説話等を行うことが望ましい。1～2分程度に収め、詩や格言、教師の体験談でねらいに合った事柄を端的に話す。今日の話し合いを振り返るだけでもよい。
- ポイント4 端的で効果的な導入**
 ・「今日は○○」について考えるよ。○○ってどういうことかな。」など、ねらいに迫るキーワードについて聞いたり、事前にとったアンケートの結果を提示したりして、本時の学習の方向性を明確に児童に示し、5分程度で終わらせる。

40分の授業デザインのポイント

- 教材名** 「手品師」 正直・誠実
- 目標** どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。
- 展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入 5分	○「誠実」について考える。 T:「誠実」や「誠実な生き方」とはどんな生き方でしょう。 C:真面目な生き方。 C:きまりを守る生き方。	◆児童が知っていることを出させる程度にする。
展開 前段 15分	○「手品師」を読んで話し合う。 ①T:友人の誘いを断るまでの間、手品師はどんなことを考えたでしょう。 C:自分の夢はかなえたい。 C:約束は守らなければ。 ②T:たった一人のお客様の前で、手品を演じているときの手品師はどんなことを考えていたでしょう。 C:約束を守れてよかった。 C:すがすがしい気持ちだ。	◆教材は、デジタル教科書や朗読CDの活用、教師の範読。 ◆手品師が結論を出すまでの気持ちを話し合う。 ◆男の子の気持ちも押さえる。 ◆誠実に行動した心の明るさについて深く考えられるようにする。
展開 後段 18分	○今までの自分について振り返る。 ①T:「男の子との約束を優先させた手品師は、生きる上で何を大切にしているでしょうか。」 ②T:「自分が迷ったけれど、そうしたほうがよいと思って行動に移せたこと、移せなかったことはありますか。」	◆他者だけでなく、自分の心に対して誠実に生きることの大切さについて考えさせる。 ◆誠実に行動するためには、思いやりや親切、勇気、正義なども関連していることを押さえる。 ◆自分の考えをワークシートに記入させる。
終末 2分	○教師の説話を聞く。	◆東京都教材集「心たくましく」を活用する。

道徳科の展開は、40分を前半20分、後半20分の大きく2つに分ける。
 ①前半は「導入及び展開前段」で主に資料の読み取りを行う。
 ②後半では、「展開後段及び終末」で主に自分を振り返る時間にあてる。

●「導入」の短縮
 ・ねらいに迫るキーワードについて聞く、アンケートの結果を提示する等ある。展開後段に活用するためのものと考え、深入りせず5分以内で終わらせる。

●「展開前段」での発問の精選
 ・資料に関する発問は2つにしぼる。最初の発問までの話のあらすじを、登場人物や場面絵を活用しながら児童と一緒に把握する。登場人物の絵を示しながら、簡単にあらすじを把握させると時間を短縮できる。



●「展開後段」での発問の精選
 ・展開後段では、自己の振り返りに関わる資料についての発問と、自己を見つめるための発問の2つにしぼる。
●考えを広げ高めるための対話的な学び
 ・後段では2～3人による話し合い活動を行うことで、児童の考えを広げ、高めることができる。

●「終末」の短縮
 ・今日話し合ったことがより高まり、実践意欲につながる内容が望ましい。1～2分程度。詩や格言、教師の体験談でねらいに合ったものがなければ、今日の話し合いを振り返るだけでもよい。

令和2年度 研究開発学校 授業力向上研修

ねらい	研究開発学校の教員として求められる資質・能力（カリキュラム・マネジメント能力、40分授業力、生活指導力等）の向上を図り、日々の授業に生かす。	対象者	研究開発学校全教員
------------	--	------------	-----------

研究開発学校の日 令和2年 7月 3日（金）

WG部員の教員	WG部員以外の教員
<p>会場：目黒区中小企業センター ねらい：目黒区立小学校の研究開発学校の研究について理解を深める。 各部会における取組について共通理解を図る。</p>	<p>会場：各所属校 ねらい：「目黒区研究開発学校着任者研修」プレゼンテーション資料を通して、目黒区の研究開発学校の取組について理解を深める。</p>
 <p>全体会の様子</p>	 <p>WGでの協議の様子</p>
<p>【感想】 40分授業午前5時間制は、児童の学習理解を高めるだけでなく、生活リズムの維持や、授業時間を柔軟に考えられること、放課後の時間の有効活用など、様々な面で利点が挙げられる。いかにして40分で授業を展開し、かつ児童にしっかりと学力を定着させるか。今後も研究を進めていく。</p>	<p>【感想】 40分授業午前5時間制、目黒区の教育活動の特色について、その効果などを学ぶことができた。 限られた時間の中で、子どもたちに何を学ばせるか（身に付けさせるか）を明確にし、日々の教材研究を行っていききたい。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>研修アンケートの結果（一部抜粋） 研修の内容について理解が深まった・・・平均3.6ポイント（4ポイント中） 全6項目の平均・・・平均3.6ポイント（4ポイント中）</p> </div>	


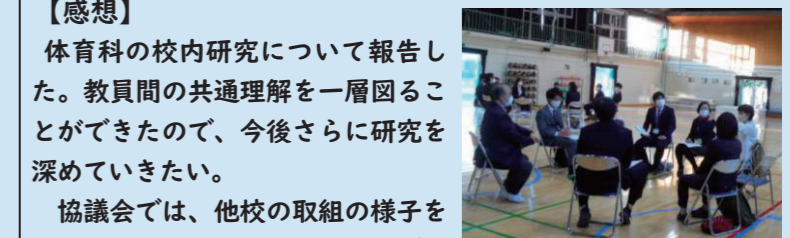

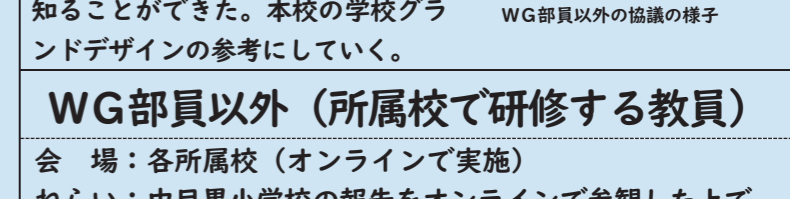
各WG開催（日時及び会場はWGによる）

ねらい：単元デザイン及び40分の授業デザイン、年間指導計画について協議し、授業力向上を図る。
※教科のWGでは、講師の先生方にご指導いただきました。（以下講師一覧）

<p>教育課程部会 調査分析部会 国語科部会 社会科部会 算数科部会 理科部会</p>	<p>西村 佐二 先生 聖徳大学大学院教職研究科元教授 池田 芳和 先生 東京福祉大学・大学院教育学部教授 柳瀬 泰 先生 玉川大学教師教育リサーチセンター教授 竹花 仁志 目黒区教育委員会事務局教育指導課長</p>	<p>音楽科部会 図画工作科部会 体育科部会 外国語科部会 特別の教科 道科部会</p>	<p>津田 正之 先生 国立音楽大学音楽学部 音楽文化教育学科教授 奥村 高明 先生 日本体育大学児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科教授 村尾 知昭 先生 鷹番小学校元校長 直山 木綿子 先生 文部科学省初等中等教育局視学官 生形 章 先生 秀明大学学校教師学部教授</p>
---	--	--	---

研究開発学校の日とは？
研究開発学校15校の教員が、研究開発学校の教員として求められる資質・能力を向上させることを目的とした研修日。
WGとは？
各研究開発学校から教育課程部会、調査分析部会、各教科部会に専門性の高い教員でワーキンググループ（WG）を構成。さらに、研究開発学校以外の学校所属の目黒区立学校授業スペシャリストも部会に所属している。

研究開発学校の日 令和2年11月13日（金）

WG部員の教員	WG部員以外（会場で研修する教員）
<p>会場：下目黒小学校・中目黒小学校・月光原小学校 ねらい：「単元デザイン・40分の授業デザインのポイント」を踏まえた授業について協議することを通して、授業力の向上を図る。</p>	<p>会場：下目黒小学校・中目黒小学校・月光原小学校 ねらい：「単元デザイン・40分の授業デザインのポイント」を踏まえた授業について各校の報告を聞き、協議することを通して、授業力の向上を図る。</p>
 <p>WGでの協議の様子</p>	 <p>WG部員以外の協議の様子</p>
<p>【感想】 WGでは、作成した年間指導計画の検討を行った。教科の特性を生かした項目を取り入れ、指導内容を明確にすることができた。自身の授業でも意識をしていく。 40分授業を充実させていくには、ねらいの重点化が大切だと考えました。マネジメントの効率化を図りながら子ども自ら問いをもち、主体的に取り組む学習をつくっていききたい。</p>	<p>【感想】 体育科の校内研究について報告した。教員間の共通理解を一層図ることができたので、今後さらに研究を深めていきたい。 協議会では、他校の取組の様子を知ることができた。本校の学校ランドデザインの参考にしていきたい。</p>
 <p>中目黒小発表の様子</p>	 <p>所属校で研修を受ける様子</p>
<p>WG部員以外（所属校で研修する教員） 会場：各所属校（オンラインで実施） ねらい：中目黒小学校の報告をオンラインで参観した上で、協議することを通して、授業力の向上を図る。</p>	

研究開発学校の日（研究発表会）令和2年12月11日（金）

会場：田道小学校
ねらい：授業を会場またはオンラインで参観し、協議や講師の指導を通して、授業力の向上を図る。
研究主題：「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた学びの実現
—『40分授業午前5時間制』におけるカリキュラム・マネジメントを生かして—」
講師：文部科学省初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 先生
講演：「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を踏まえた指導の在り方

研究開発学校の日（研究発表会）令和3年 1月22日（金）

会場：烏森小学校
ねらい：授業を会場またはオンラインで参観し、協議や講師の指導を通して、授業力の向上を図る。
研究主題：「1コマ40分の授業づくり 午前5時間制の教育課程 単元編成と授業展開の研究・開発、新しいカリキュラムの多様性」
講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室室長 板倉 寛 先生
講演：授業時数を見直した中で資質・能力をどのように育成していくか

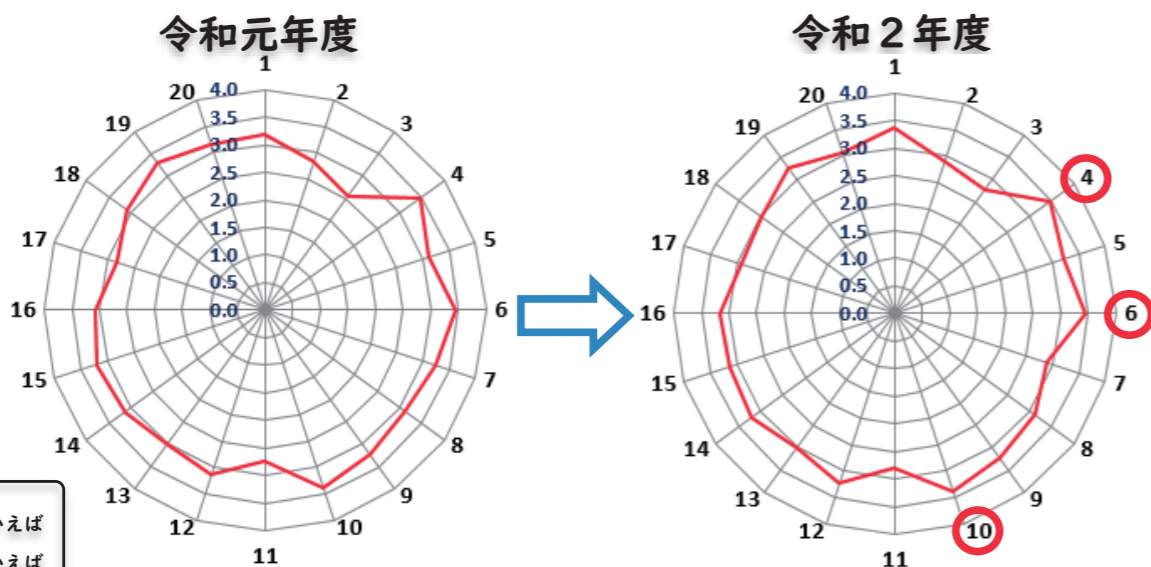
教員の 40分授業における 自己診断

(調査目的)
40分授業を行う上で、どのようなことを意識し、工夫しているのかを明らかにするとともに、自己診断を通して各々の教員の40分授業に対する意識の向上を図る。(年2回実施)

自己診断項目

- ①授業ごとで評価する視点(観点)を決めている
- ②授業は指導書の予定通りに進めている
- ③児童に理解度について自己評価させている
- ④授業の開始と終わりは時刻通りに行っている
- ⑤児童の学力差に応じた工夫をしている
- ⑥授業の始めに学習の見通しをもたせている
- ⑦他者との意見交流・話し合いの場面を設定している
- ⑧授業の始めにその時間の到達目標を伝えている
- ⑨題材に対する興味・関心をもたせている
- ⑩基礎的・基本的な知識・技能はおさえている
- ⑪応用・発展的な問題を取り入れている
- ⑫考える課題とそのための場面・時間を設定している
- ⑬課題解決に関する見方・考え方を教えている
- ⑭ねらいに迫るための学習活動を工夫している
- ⑮発問や説明・指示は絞って簡潔にしている
- ⑯板書(ICT機器を含む)は大切な要点のみ表示している
- ⑰児童が自ら学び取る学習を取り入れている
- ⑱学習内容については取捨選択して教えている
- ⑲単元の内容により総時数を増やしたり減らしたりしている
- ⑳単元ごとで、教える内容や量、順番などを変更している

40分授業における授業診断結果



- 4 あてはまる
- 3 どちらかといえばあてはまる
- 2 どちらかといえばあてはまらない
- 1 あてはまらない



【教員が40分授業で特に意識しているポイント ベスト3】

- 1 授業の開始、終了時刻を守ること・・・(自己診断項目④)
- 2 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ること・・・(自己診断項目⑩)
- 3 授業の始めに学習の見通しをもたせていること・・・(自己診断項目⑥)

<令和元年度も令和2年度もベスト3は、同じであった。>

※具体的な単元デザインのポイントや40分の授業デザインのポイントは、各教科等のページをご参照ください。

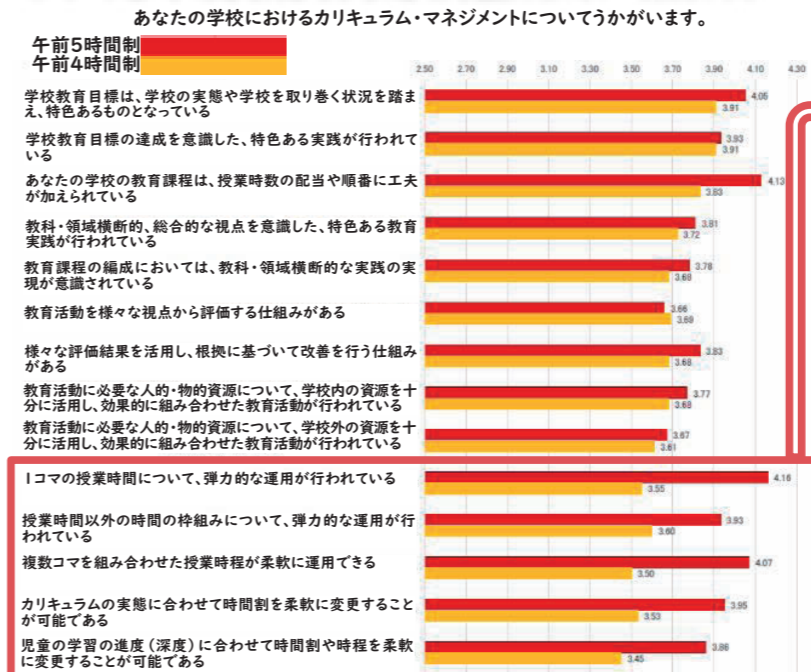
令和2年度の 成果と課題

- 成果(○)
- 学校グランドデザインの形式を統一し、各学校が作成することをとおして、「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程の開発を進めることができた。
 - 各教科部会において、第3・6学年における単元デザイン・40分の授業デザインのポイントを明確にすることにより授業改善の視点を共有することができた。
 - 自己診断・実態調査結果の分析をとおして、40分授業で教員が意識するポイントや午前5時間制の特長を明らかにすることができた。

教員及び児童の実態調査

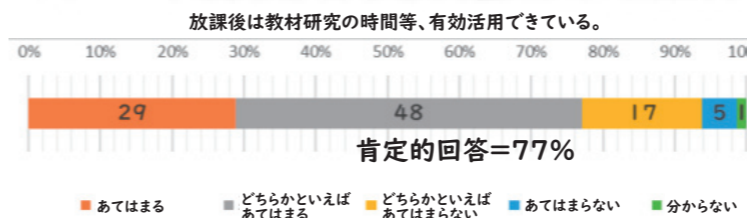
(調査目的)
研究開発学校における現在の実態や課題をより明確に把握し、教育活動や教育環境の改善に生かす。

令和元年度教員実態調査結果(抜粋)



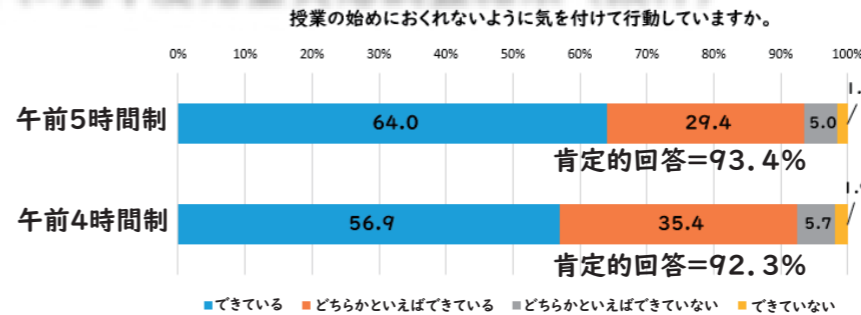
※令和元年度教員実態調査は、区内全小学校22校を対象として実施

令和2年度教員実態調査結果(抜粋)



※令和2年度教員実態調査は、研究開発学校15校のみを対象として実施

令和元年度児童実態調査結果(抜粋)



※令和元年度児童実態調査は、研究開発学校14校のみを対象として実施

【授業時間等の弾力化】

・1コマの授業時間を、20分間の帯時間と40分授業とを組み合わせるなど弾力的な運用ができ、体験活動等の長い時間を要する活動に複数のコマを組み合わせるなど、継続性のある授業を行うことができる。

この他にも、午前5時間制実施校の教員は、下のように「カリキュラム・マネジメント」への参画意識や、学習内容の焦点化等の意識が高いことが、調査結果からわかりました。



【参画意識の向上】

・授業時程の柔軟な運用や放課後の有効活用、学年や会議、研修の時間の確保等、裁量の時間が増えたことによる教員のカリキュラム・マネジメントへの参画意識が向上した。

【学習内容の焦点化】

・ICT機器の活用をはじめ、1単位時間の学習過程(導入・展開・まとめ)における手だてを工夫することで、時間短縮や学習内容等の焦点化を図りながら、ねらいを達成する授業づくりが行われている。

【生み出した時間の活用】

・児童の学びの質の向上を図るために、弾力的な時間割設定に対応した指導方法や教材について、教員同士で話し合いながら授業をつくり出す時間として活用している。
・児童が授業で分からなかったところや苦手な学習について教員が個別指導したり、児童が学校生活について教員等に相談したりする時間として活用している。



【児童の主体性の育成と学習規律の確立】

・児童自らが授業の始めに遅れないように気を付けて行動する等、「40分授業午前5時間制」は学習規律の確立につながっている。

課題(●)

- 各学校は、「40分授業午前5時間制」によって生み出した時間を、さらに学校独自の教育課程に生かすとともに、学力調査・意識調査等に基づいた評価・検証を行う。
- 第3・6学年以外の単元デザイン・40分の授業デザインのポイント、年間指導計画を作成する。
- 学習効果をさらに高めるため、家庭学習との関連やICT機器の活用について検討する。

【参考】

目黒区立小学校の40分授業午前5時間制

1
生

例

学びの午前

活動の午後

生活時程

朝会	8:10~8:15
朝読書	8:15~8:25
朝の会	8:25~8:35
1校時	8:35~9:15
休み	9:15~9:20
2校時	9:20~10:00
休み	10:00~10:05
3校時	10:05~10:45
中休み	10:45~11:05
4校時	11:05~11:45
休み	11:45~11:50
5校時	11:50~12:30
給食	12:30~13:15
掃除 昼休み	
裁量等	
6校時	
帰りの会・ 下校	15:00~

●生活習慣の確立

96%の児童が給食の時間が少し遅くなることを考慮し、朝ご飯をしっかり食べてきています。このように、**40分授業午前5時間制は、早寝・早起き・朝ごはんを習慣化**させることができます。

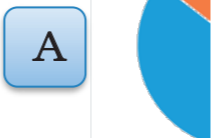
●授 児童 学習 時間 確保

集中力

●継続的な学習や知識・技能の習熟・ 定着を図るための短時間学習の実施

国語科や算数科、外国語科の授業では、短時間学習を実施しています。単元や題材といった時間や内容のまとまりの中に適切に位置付け、授業のねらいを明確にすることで**基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る**ことができます。

Q カリキュラムの実施に合わせて時間割を柔軟に変更することが可能ですか。



裁量等（生み出した時間）

学び

生み

児童

●個別指導の充実

放課後の時間を活用して、授業で分からなかったところや苦手な学習を先生に個別に教えてもらったり、学校生活について先生と話をしたりすることができます。

●自由時間の拡大

放課後の時間を活用して、友達とランドセルひろばを動かして遊ぶことができます。放課後、習い事がある時間があると好評です。

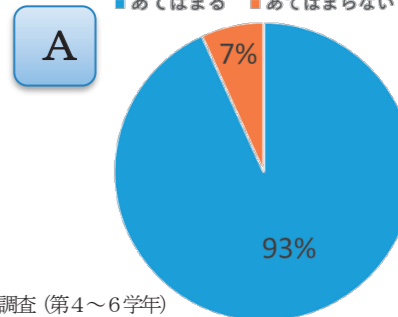


日を「学びの午前」「活動の午後」と位置付け、恒常性と弾力性のバランスを図りながら、緩急ある生活のリズムをみ出し、質の高い授業を年間を通して実施することができます。

業時数と授業コマ数の確保

直は授業開始時刻を守り、40分間集中して取り組んでいます。また、午前中に5単位の授業を行うため、午後が授業カットになっても、**業時に授業時数と授業コマ数を確保**することができます。

Q 授業の始めに遅れないように気を付けて行動していますか。



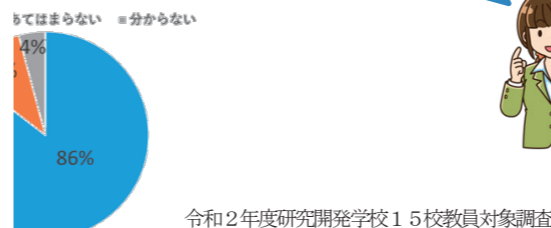
令和2年度研究開発学校15校在籍児童対象調査（第4～6学年）

の高い午前中に行う5単位時間の授業

●「マイプラン」の実施

詳細はP9参照

マイプランや振り返りを実施したことで、1日や1週間の予定が分かり、安心して生活する様子が見られました。また、児童が自分の活動や姿を振り返ることで次の活動に対して、主体的に取り組もうとする姿勢が多く見られるようになりました。



●長時間学習を活用した 主体的・対話的で深い学びの充実

40分と20分を合わせて60分の長時間学習とし、体験活動を充実させるなど単元マネジメントすることができます。**思考力・判断力・表現力等の育成**に効果的です。



（時間）の活用

の質を高める「長時間学習」の活用

生み出した放課後のゆとり時間の活用

教員

●研修、学年会の充実

放課後の時間を活用して、児童の学びの質の向上を図るために、弾力的な時間割設定に対応した指導方法や教材について、教員同士で話し合いながら、年間指導計画や単元デザイン、40分の授業デザイン（児童の主体的な学習の姿勢を育む授業展開等）について研究等を行うことができ、**授業力の向上**につながっています。



等で、たくさんあっても遊ぶ時



生み出した放課後の時間を活用した研修の様子
令和2年11月13日 研究開発学校の日（所属校で研修）
詳細は、P48参照